

三宅島の現状（その39）

平成14年9月25日
現地災害対策本部(三宅島)

【気象及び火山活動の状況】 9月11日～9月25日

この期間は、秋雨前線の影響を受けて曇りや雨の日が多く、晴れた日は19日だけでした。北東風の日が多く気温は次第に低くなり、島でも秋を感じるようになりました。

21日に発生した台風19号が22日深夜に伊豆諸島の南を通過しました。総雨量は21mm、最大瞬間風速は32.8m/Sで、翌朝5時半に早朝巡回を行いました。特に被害はありませんでした。

火山の噴煙の状況は雲のため観測できない日が多くありましたが、12日には白色の噴煙が火口上1,200mまで上がっているのが観測されました。なお、16日未明に小噴火がありました。この期間火山ガス(SO₂)の放出量調査は行いませんでした。また、島内のSO₂濃度で最も高かったのは、21日の阿古薄木地区の2.9ppmでした。

【日帰り帰宅事業の実績】

年月日	H14.9.3	H14.9.5	H14.9.10	H14.9.18
場所	坪田地区	三宅地区	三宅地区	阿古地区
人数	173名	160名	172名	164名

台風や海上不良など、天候の影響で2回延期されていた阿古地区の日帰り帰島がようやく実施されました。当日の参加者数は160名。三宅島着は三池港でしたが、日中に風向きが北東になったため、出発は錆が浜港となりました。住民が滞在していた午前中は晴天で、日帰り帰宅は順調に実施されました。

【LPガス容器回収作業】

17日から安全保安協会がLPガス容器の回収作業を開始しました。サタドー岬の逢の浜温泉健康ランドを基地にして坪田から時計回りに回収を行っています(伊ヶ谷地区の一部を先行回収)。

18日夕方までに171本を回収し、うち不良容器は84本と、約50%の不良率でした。特に、三池地区の不良が数値を大きくしています。

【内閣官房危機管理審議官が来島】

24日に村田保史内閣官房危機管理審議官、佐藤暢彦内閣官房危機管理担当参事官ほか4名の内閣官房の方々が家屋被害、脱硫舎の状況、村営牧場の火山弾被災跡、村が設置する避難施設建設現場などを調査されました。

【その他】

秋の交通安全週間を21日から30日まで実施しています。島内を走行する車は多くなりましたが、整備体制が十分とはいえない状況です。車の事故が起きないように毎日の代表者会議で安全運転を呼びかけています。

なお、支庁の車にはステッカーを貼り、交通安全運動に協力しています。

【就労情報】

村役場では求人情報を下記のホームページに掲載するとともに、住民情報ネットワーク(島民連絡会)42ヶ所の連絡所にも送付しております。仕事を探している方はもよりの連絡所でご覧下さい。また、就職についての相談は三宅村村民課避難対策係(代表03-5321-1111内線45-651)にご連絡ください。なお、直近の情報はホームページ「三宅島を離れた村民のみなさまへ」をご覧ください。

(アドレス <http://www.miyakemura.com>)

(問い合わせ先) 三宅支庁総務課行政係 電話: 03-5320-7854

平成14年9月30日

三宅村復興計画策定委員会の報告

第9回三宅村復興計画策定委員会開催

[日 時] 平成14年9月4日(水)
午後1時30分～午後5時00分

[場 所] 東京都庁第二本庁舎一階ホール

[主な内容]

◎別紙議事概要のとおり……………1～6ページ

三宅村復興計画策定委員会事務局

住所 〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1 東京都庁第一本庁舎南 41 階

電話 03(5320)7826 FAX 03(5388)1603

メールアドレス miyake_c@miyakemura.com

第9回三宅村復興計画策定委員会の議事概要

「三宅村復興基本計画（案）」における「基本計画」「ゾーニング」「財源の確保について」「今後の課題」を中心に、委員の方々から次のような意見が交わされました。

1. 基本計画について

前回の委員会において、事業の優先度合いが検討された基本計画案を整理したものが事務局より示され、その際、基本構想のフレームに合わせ、事業を「帰島までに完了するもの」「緊急3カ年事業」「前期5カ年事業」「後期5カ年事業」に分類・整理した。それをもとに、次の意見等が交わされた。

－老人ホームの建設について－

・生活再建の分野で「老人ホームの建設」が入っているが、三宅村には既に特養老人ホームの「あじさいの里」があり、同様な施設を造るとしたら「あじさいの里」の拡充で足りる。有料老人ホームだとしたら、かなりの利用料が想定され、島内、島外の需要が見込めない。以上の理由から「老人ホームの建設」は削除してもよいのでは。

<結論>

・「老人ホームの建設」は削除する。

－防災意識を向上させる施設について－

<事務局からの提案>

・現在、復旧事業のために設けている仮設の橋を、災害を振り返るための施設として保存したらどうかという提案を東京都建設局から頂いた。これを受け、防災しまづくりの分野における「防災教育、教訓の継承」の中に事業を入れ込みたい。

<意見>

・これまで、子ども達に災害の現場をあまり見せてこなかった。見せる機会を奪ってきたとも言える。これから島で生きていくためには、そうした現場を教育に活用することも大事。

<結果>

・火山と「共生」する島として、災害現場を保存していくことも島の資源となることから採用する。

－宿泊施設の整備について－

・観光面における緊急3カ年事業の最優先事業では「ガイドブックの作成」しか位置づけられていない。しかし、観光には受け皿となる宿泊施設の整備が不可欠であり、緊急3カ年事業として位置づけるべきではないか。

・民宿業者の再建対策は、生活再建の分野において「帰島までに完了する」事業で位置づけている。復興基本計画の目標年次を確認すると、前期5カ年事業は14年度からスタートするものであり、帰島後の緊急3カ年事業より先に実施されるので、今の位置づけのままでいいと思う。

<結論>

- ・現状の位置づけのままとする。

2. ゾーニングについて

三宅島の復興事業を推進するため、生活再建、地域振興、防災しまづくりの各分野における下記の15のゾーニング案が事務局より示され、それをもとに意見が交わされた。

○生活再建のためのゾーン

「保健・福祉、医療ゾーン」「教育・文化ゾーン」「歴史ふるさとゾーン」

○地域振興のためのゾーン

「火山エコツーリズムゾーン」「森・野鳥とのふれあいゾーン」「海とのふれあいゾーン」「リフレッシュゾーン」「農業活性化（体験）ゾーン」「漁業活性化（体験）ゾーン」「商工業・新産業活性化ゾーン※」

○防災島づくりのためのゾーン

「防災避難拠点ゾーン」「建築・居住禁止ゾーン※」「交通利便化促進ゾーン」「海上交通拠点ゾーン」「火山・防災研究拠点ゾーン※」

注) ※印は場所が未設定のもの

ー保健・福祉、医療ゾーンについてー

・事務局案では、将来的に「保健・福祉、医療ゾーン」を「防災避難拠点ゾーン」とともに伊豆地区に新たに集中させるという案だが、確かに噴火時には「あじさいの里」が医療機関や交通機関と離れていることに不便を感じた。ただし、神着の中央診療所に避難命令が出たとき、患者を「あじさいの里」で受け入れたなど分散のメリットもあった。

・医療や福祉施設を集中させるのか、あるいは「あじさいの里」を中心に福祉のバックアップ拠点を設けるなど各地区で安全性を確保するのか、避難を考えると集中、分散どちらにもメリットがある。

<結論>

- ・コスト的な部分を考慮しながら、事務局で再び検討する。

ー火山エコツーリズムゾーンについてー

・概ね、ハチマキ林道内を火山エコツーリズムゾーンと位置づけており、ゾーンの説明に「自然の回復・遷移をモニタリングすることなどを観光に活かしていく」とあるが、都ではほとんどの部分を対象に森林の再生事業を早急に行う予定である。治山の意味もあるし、野鳥の生息環境の整備、魚つき保安林としての整備の意味もある。手つかずで残す部分は少ないと思う。

・そのまま残す地域は火口付近を中心として、国立公園特別保護地区を少し広げる程度ではないか。

・村営牧場付近は牧場に似た用途を検討すべきである。

・村営牧場付近は、牧場を再生させるかどうかは別にして自然を再生させるゾーンである。

・他のゾーンとの関係から、火山エコツーリズムというネーミングがよくない。「火山とのふれあいゾーン」「火山との共生ゾーン」などが考えられるのでは。

<結論>

- ・ゾーンの説明において、「植林による自然の再生を図るゾーン」「手を加えず自然の復元を観察するゾーン」「村営牧場の復活を検討するゾーン」と3つのサブゾーンがあることを加える。
- ・ゾーンの名称について再考する。

ー農業活性化（体験）ゾーンについてー

- ・既存の農業振興地域をベースに4カ所ゾーニングされているが、伊豆地区から伊ヶ谷地区にかけてのゾーンは山の上の方に寄りすぎている。

<事務局の見解>

- ・海よりの方は防災避難拠点ゾーンを設定したので、その関係で山よりにあげた。

<結論>

- ・事務局案の通りとする。

ー漁業活性化（体験）ゾーンについてー

- ・漁協としては、阿古漁港を中心に漁業機能を集約化する方針なので、このゾーン案でよい。

ー商工業・新産業活性化ゾーンについてー

- ・ITを活用したマイクロビジネスなど新産業を誘致するには自然が豊かな住環境が必要である一方、商工業にはある程度のスペースが必要であり、分けて考えるべき。
- ・ビジネスとは直接関係ないが、ニューリッチ層の定住を促し、高い税収入を得るという方法もある。
- ・噴火前には村企業課が溶岩を活用した建材事業を行っていたが、噴火で壊滅状態にある。再建を検討しており、新たな候補地を探している最中である。

<結論>

- ・商工業のためのゾーンは、実際の要望があったときに検討することとし、現時点では未設定とする。

ー建築・居住禁止ゾーンについてー

- ・確かに土地利用の制限は必要であるが、現在、都ではハザードマップを作成中であり、そうした具体的な危険箇所などが確定してから検討すべきであり、復興計画の中ではゾーンとして位置づけなくてもよいのでは。
- ・危険地区が指定された場合、その地区に住む人の資産はどうなるのか。復興計画の中で位置づけるゾーニングは、火山ガスがおさまってから姿を示せばよいのでは。
- ・居住可能か否かは帰島を願う島民のためにはっきりさせておく必要がある。一方、ガスとの「共存」も考えていくべきではないか。
- ・帰島するときは皆でいっしょに帰ることを前提とすべきであり、その際、もし火山ガスが発生した場合でも、人口規模にみあったクリーンハウスの設置、食料の備蓄、情報伝達のしくみ、避難のための交通手段の確保など、避難体制が確立されていることが必要である。
- ・ガスによる危険性が今後も予測される地区での住民の居住は、個人の選択にまかせるべきではない。そうした地区は噴火災害のメモリアルゾーンとして公的な財産とし、「火山・防災研究拠点ゾーン」

と一体化させてゾーニングしてもよいのでは。住民は制度を用いて集団移転することで救える。ただし、これは現在の状況を活かすとしたらの発想で、今後、ガスがやむか、やまないかは分からない。

<結論>

- ・メモリアルゾーンとしての位置づけは事務局で検討する。

—新たに設けたらいいと思うゾーン—

- ・行政の拠点となるゾーンが抜けているが、新たに設けなくてよいのか。
- ・火山ガスの状況を考えると、三池地区にある役場は使えないのでは。
- ・火山ガスの中でも行政はがんばっているという姿勢を示す上で、役場は三池地区にあってもよいと思う。
- ・役場の移転には多くの資金がかかる。また、日常の行政サービスは出張所でも間に合うので、新たな行政ゾーンの設定はいらぬのでは。

<結論>

- ・行政ゾーンとしての設定はしない。

3. 財源の確保について

財源の確保について、以下を要旨とした案が説明され、それに基づき、意見が交わされた。

- ①基本は観光業の活性化を核として村の経済を活性化させ、その税収入を復興事業の財源とする。加えて、公共事業における国や都の手あつい対応への要望、環境・情報等の先進的な試みを復興事業に取り込むことによる国のモデル事業としての採択への努力、PFI手法（民間資金の活用による公共的な事業の遂行）の導入による民間資金の活用などについて検討する。
- ②個人財産の補償について復興基金の創設を目指す。さらに、宝くじなどの収益金を財源として検討する。
- ③エコマネーの導入を検討する。

—復興基金について—

- ・復興基金やエコマネーという表現ではよく分からないので、「特別立法を視野に入れて最善の対応を図る」程度の表現でいいのでは。
- ・復興基金は、阪神・淡路大震災の際、実際に設けられ、個人の補償などにも活用された。現在の財政状況からどの程度の基金の創設が可能か不安な面もあるが、しくみとしてはあるのでアピールしていくべき。
- ・道路、橋梁などの復興が進む中、今後は個人の復興に向けて、特別時限立法が検討されていると聞いたが。
- ・特別時限立法は、復興基金創設のために検討されているものと考えてよい。

<結論>

- ・復興基金の創設に向け、アピールしていく。
- ・文言的には、「個人財産の損害の補償」は「生活再建への支援」程度の表現にする。

－エコマネーについて－

・エコマネーは地域が独自に発行する通貨で利子が付かず、財として貯めるものではなく、環境、福祉、コミュニティなどの面に関する地域内のサービスや流通の循環を促すものである。「島」という利点を生かしながら、このエコマネーについて研究していくとよいだろう。

<結論>

・エコマネーについて研究していくことを検討する。

－長期的な公共事業の投資について－

・帰島後において一時期に膨大な復旧事業が行われるが、それを10年かけて、継続的・持続的にやる必要がある。そういった部分を国や都に要望してはどうか。

・災害関連の補助は期限が限られており、噴火発生後10年間というのは難しいと思う。

<結論>

・災害関連補助の期限などの問題はあがるが、村として積極的に国や都に要望していく。

－産業を活性化させる資金について－

・産業の活性化を財源の基本としているが、産業を活性化させるまでの財源はどうするのか。

・つなぎ融資にまでふれると、計画の文章としては細かくなりすぎる。

<結論>

・ここで示すのは方針であり、実際には各種融資、補助、助成制度等を活用していくことになり、文章としては特にふれない。

－支援をアピールする際のポイントについて－

・三宅は緊急避難命令が出て、3日で全島民が避難した。しかし、ここまで避難が長期にわたるとは思ってもみなかった。そのため、支援が必要と思う。

・3日で避難というよりも、「長々期的全島避難」が三宅の特色であり、キーワードである。しかも帰島の時期が分からない。これは、日本では初めてのことであり、支援をアピールする際のポイントとなる。

4. 今後の課題について

事務局より復興に向けた課題として、①復興事業の達成度合いを評価するため「数値目標を設定する」、②財源の有効活用のため各事業の「事業費の算出と優先順位の決定」を図る旨の案が出され、これにもとづき意見が交わされた。

－優先順位の決定について－

・優先順位の決定については、行政とともにパートナーシップとなる住民が参加していくべき。そのため、住民と行政が話し合う機会を様々な媒体を用いて設けていくべきである。

<結論>

・「パートナーシップのもと行政と住民が協議して優先順位を決定する」旨の文章を追加する。

5. その他討議事項全般について

ー複合的な事業の取り扱いについてー

・提案した案がトコブシ放流事業とされているが、趣旨とは違う。海岸に掘り込みをつくり、トコブシを放流した上で回収率を高めるとともに、いつでも泳げ、ダイビングにも活用できるというアイデアなのだが。

<事務局の見解>

・「自然を利用した多目的プール」を別に設けており、その中で位置づけられると思う。

ー計画のシナリオ化についてー

・基本計画案で事業は多くあげられているが、観光面では具体的にどういうことをやればお客が呼べるのか、どうやって島で3泊4日を過ごさせるのかなどを検討する必要がある。

・要素からシナリオをつくれという指摘であり、これまでは「何を」やるのかを中心に検討してきたが、これからは「どのように」やるのかを検討していく必要がある。

ー基本計画の枠組み、重点整理についてー

・基本計画の各分野（生活再建・地域振興・防災しまづくり）の前段に、重点事項などを整理する必要があると思う。

・全体の枠組みとしては、「観光を核に地域振興を図り、それにより得た税収入で生活再建を図る。そうした取り組みを担保するため、いざという時の避難体制の確保や質の高いインフラ整備など防災しまづくりを進める」という形でまとめていけばいいと思う。

<結果>

・重点事項などの整理を、次回委員会までに事務局で整理する。

以上の内容の通り、三宅村復興基本計画（案）の「基本計画」「ゾーニング」「財源の確保について」「今後の課題」について議論がなされました。

次回の三宅村復興計画策定委員会の開催予定日は、10月4日（金）です。

「火山灰プリント」の生産作業に従事していただく方の募集

村民の皆さまに、三宅島の火山灰を使用した火山灰プリントを今後の三宅島特産品として生産し、帰島後の復興の一助となるよう、「火山灰プリント」生産作業に従事される方を下記のとおり募集いたします。

記

1. 応募資格

現在避難されている三宅島民の方で、作業所まで通勤可能で火山灰プリントの生産作業に従事出来る方。

2. 募集期間

①募集期間 平成14年10月1日(火)から平成14年10月15日(火)まで

②採用通知 平成14年10月下旬(採用・不採用にかかわらず郵便等により連絡)

3. 作業場所

(1)八王子作業所 東京都八王子市明神町3-19-1 東京都立産業技術研究所八王子庁舎

(裏面案内図参照) 【交通】京王線・京王八王子駅より徒歩3分

(2)北区作業所 東京都北区西が丘3-13-10 東京都立産業技術研究所西が丘庁舎

(裏面案内図参照) 【交通】JR赤羽駅西口→王子駅行バス 西が丘1丁目下車徒歩3分

JR赤羽駅西口→赤羽車庫行バス 国立西が丘競技場下車徒歩1分

4. 作業条件

(1)作業内容 三宅島の火山灰を使用した火山灰プリントの生産

(2)作業期間 ①八王子作業所 平成14年11月11日(月)～平成14年11月14日(木)

平成14年11月18日(月)～平成14年11月21日(木)

平成14年11月25日(月)～平成14年11月29日(金)

平成14年12月2日(月)～平成14年12月6日(金)

②北区作業所 平成15年1月27日(月)～平成15年1月30日(木)

平成15年2月3日(月)～平成15年2月6日(木)

平成15年2月7日(金)～平成15年2月14日(金)

※2月8日(土)・9日(日)・11日(火)を除く。

平成15年2月17日(月)～平成15年2月21日(金)

(3)作業時間 一日8時間程度

(4)賃金 6,500円/日・税込(交通費は実費支給)

(5)募集人員 一作業所18名(計36名)【応募者多数の場合は抽選といたします。】

5. 問い合わせ先

観光商工整備担当課 03-5320-7785

三宅島観光協会 03-5473-9834

6. 応募方法

必ず**官製はがき**にて①希望する作業所名(八王子市・北区)②現住所、③三宅村住所、④氏名、⑤年齢、⑥性別、⑦電話番号を記入のうえ、下記住所に応募してください。

(平成14年10月15日(火)当日消印有効)

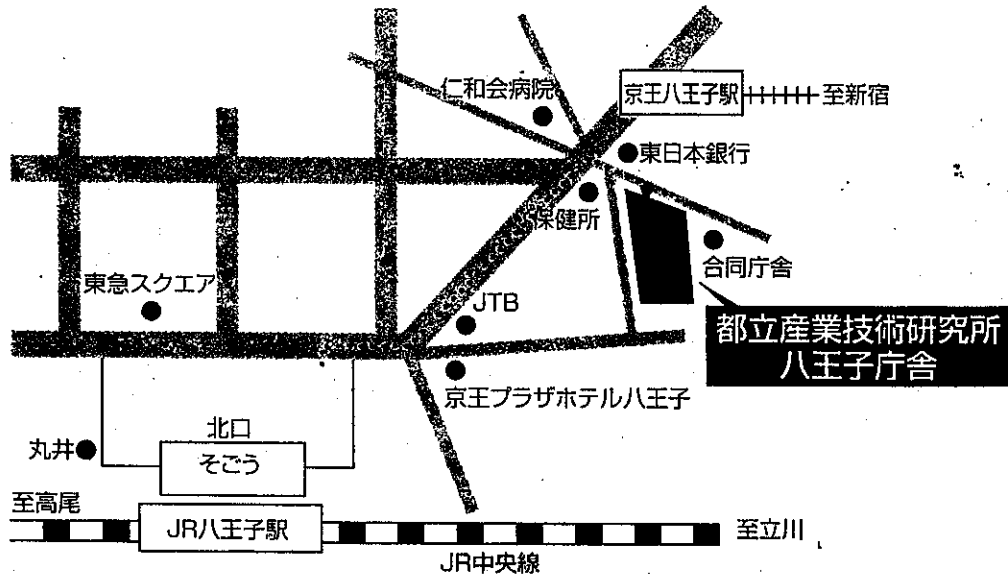
〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1

三宅村新宿総合事務所内 観光商工整備担当課 火山灰プリント係

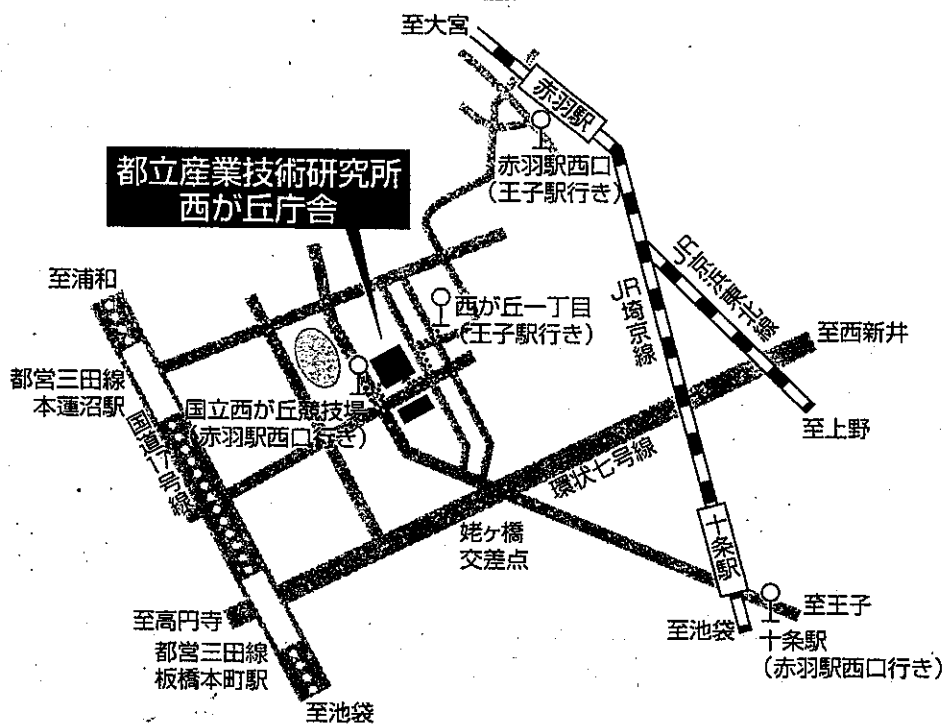
※火山灰プリントとは？

東京都産業技術研究所が技術開発したもので、火山灰を特殊な溶剤に混ぜ、デザインを切り抜いた型紙の上から印刷し、布等にプリントするものです。

【八王子作業所】



【北区作業所】



平成14年10月1日
三宅村役場
農林水産業整備担当課

『三宅島漁業振興シンポジウム』の開催について(ご案内)
＝ 三宅島の水産と噴火災害(漁業復興をめざして) ＝

三宅島の噴火・地震災害が発生してから2年余りが経過しましたが、この間、三宅島の漁業者も避難生活を余儀なくされ、島の周辺漁場がどうなっているのか気がかりなところではあります。

そこで、東京都水産試験場と東京水産大学が共催して、現時点での三宅島周辺漁場の状況や水産生物への影響を把握し、今後の漁業復興を目指した取り組みを明らかにするため、下記のとおりシンポジウムが開催されます。

島の漁場の様子などを知る機会ですので、漁業者のみならず多くの島民の皆さんに参加していただきたくご案内いたします。

記

- ◆ 日時 平成14年10月12日(土) 13:30～17:00
- ◆ 会場 都民ホール(都庁:都議会議会議棟 1階)
- ◆ 交通 「新宿駅西口」から 徒歩約10分又は、大江戸線「都庁前駅」

プ ロ グ ラ ム

- I 基調講演
・伊豆諸島における噴火災害と漁業
米山純夫(東京都小笠原支庁小笠原水産センター所長)
- II 講演発表
1. 火山噴火後の三宅島の状況 (東京都三宅支庁産業課長)
 2. 島周囲の浅海域における高濁度水の分布と挙動 (東京水産大学)
 3. 2000年火山灰の化学的特徴と成分の水への溶出 (東京水産大学)
(理化学研究所)
 4. 噴火後の三宅島磯根漁場と水産資源の現状 (東京都水産試験場)
 5. 火山灰のフクトコブシへの影響 (中央水産研究所)
 6. 火山噴出物を活用した海藻礁試験 (東京都水産試験場) (東京水産大学)
(東京都産業技術研究所)
- III パネルディスカッション
『三宅島漁業の復興をめざして!』 座長:馬場安男(東京都農林水産部参事)
パネラー:東京都農林水産部水産課、三宅村、三宅島漁協、東京水産大学、
東京都水産試験場

◎ご来場の方には、「ゆめ農園」と「げんき農業」の生産物を無料配布いたします。

●お問合せ先 : 東京都水産試験場 資源管理部
☎ 03-3433-3253 担当:村井・武藤

編集世話人から

「げんき農場だより」第12号でご挨拶してからはや半年近く、新たな7名のメンバーで担当することになった「げんき農場だより」も今号で5号を数えることができました。

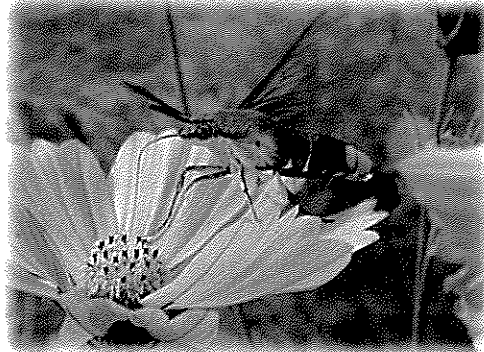
この間、農作業の風景や日々の生活、ふるさと三宅島を思う気持ちなど、色々な手記を多数掲載することができました。原稿をお寄せくださった皆さま、ありがとうございました。

また、今年度からカラー印刷にて発行することができました。関係者のご尽力に心から感謝申し上げます。

これからも「げんき農場だより」は、新たな編集委員の方に引き継がれて発行されていきます。今後ともご愛顧くださいますようお願い致します。

【編集世話人】

宇賀神けい子、小島富久栄、浅沼妙子、平井美也子、三野富恵、木村里恵、伊藤そよ子



来場者紹介

【見学等】

- ・八王子市丸山町 小板橋夫妻
- ・田村安太郎さん(北区桐ヶ丘在住:坪田)
- ・あじさいの里 山田香子さん、宮川紀子さん
- ・三宅小 浅沼友子さん、阿古小 大越敬二郎さん
- ・三宅村村会議員 浅沼功一郎さん
- ・日本大学大学院生 杉山愛さん

【取材等】

- ・「自由民主」記者 森棟隆公さん
- ・公明新聞記者 宮地広助さん
- ・交通新聞社 菅原久美子さん
- ・多摩ニュータウンタイムズ 本吉寿夫さん 外1名

(順不同)

「農場へ来るには」

JR八王子駅北口『12番』乗り場、または京王八王子駅『4番』乗り場より、『稲荷坂下』バス停で下車徒歩10分。「ひよどり山中学校」のすぐそばです。

※両乗り場とも「純心女子学園」行きは2系統ありますので、「稲荷坂下」を通ることを乗車の際にご確認ください。

三宅島「げんき農場」だよりのバックナンバーは、三宅村のホームページ「村民の広場」の「げんき農場情報」でもご覧になることができます。こちらでは掲載写真が全てカラーで閲覧いただけますので、インターネットをご利用できる方は是非ご覧下さい。

「村民の広場」アドレス -> http://www.miyakejima.gr.jp/info_miyake/

三宅島「げんき農場」だより

発行元 三宅島「げんき農場」
所在地 八王子市宇津木町236-1
Tel&Fax : 0426 - 27 - 4355
e-mail : genki-farm@nifty.com

ひよどり山に秋の気配

天気の良い日、農場に隣接する都立小宮公園には多くの方が訪れます。昨年はコスモスやポーチユラカ畑はすぐに評判になり、広報八王子にも紹介されました。

今年も春先から花が満開でした。スイートピー、ルピナス、矢車草、ラナンキュラス、アネモネなどなど。現在はポーチユラカ、マリーゴールド、

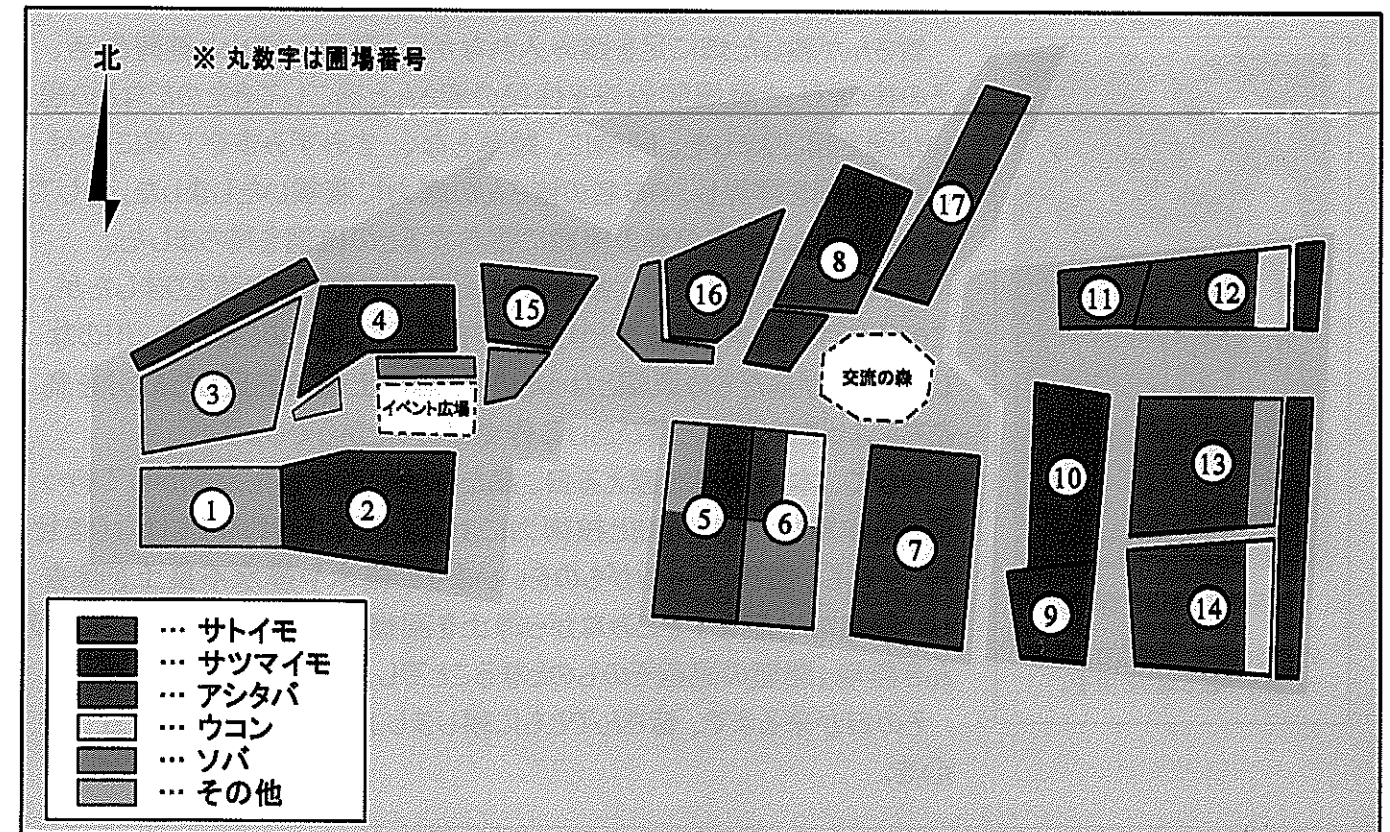


ソバなどを見ることが出来ます。もうしばらくすると、昨年人気を博したコスモスが今年も場内を賑わせてくれるでしょう。

また先頃、ゆめ農園で育てられた“つわぶき”の苗が大量に持ち込まれ、畦を花畑に変えて順調に育っています。作物の葉の緑に混じって、色とりどりの花々が目を楽しませてくれるげんき農場です。

作付け状況

2度目の本格的な収穫期を前にした農場の作付け状況です(主要品目のみ)。

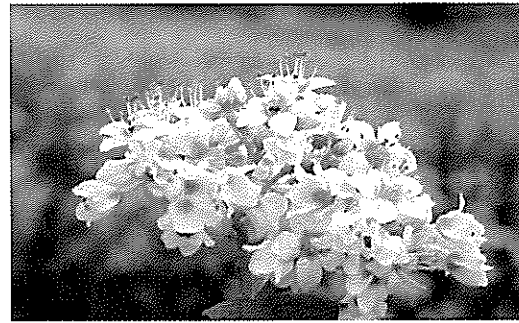


秋蕎麦(ソバ)満開近し

この夏、げんき農場では場員の方々が炎天下を押し、農場の空いたスペースを開墾し、ソバを播きました。現在順調に育ち、今一斉に花芽を持って開花を待っています。「蕎麦好き」「蕎麦食い」を自称される方もいらっしゃると思いますが、作物面から「ソバ談義」を少し。



ソバは日本人に大変好まれていますが、原産地はヒマラヤの山岳地帯から中国雲南省付近とされています。現在は中国、朝鮮半島、北米、オーストラリアなど各地で作られています。ソバの大消費国の日本の自給率は2割程度です。最近水田転作作物として、あるいは雑穀ブームの中で人気が出てきました。



ソバは乾燥には強いものの、湿害には弱く、排水対策が重要です。また、吸肥力が強く、やせ地でも良く育ち肥料のやり過ぎは禁物です。連作にも強く、栽培期間も60~80日と短いため、他の作物の前作やクリーニングクロープとして有用です。発芽や生育が早く雑草の発生を抑制し、管理作業も省力できます。



11月には収穫予定です。収穫・乾燥・脱穀・製粉・麦打ちなど知恵と技能と経験が必要です。「ソバ通」の方々のご支援をお待ちしています。

(中央農業改良普及センター三宅支所長 藤本 周一)

「げんき農場」を訪ねて

中央農業改良普及センター 前三宅支所長 山岸 明

この8月、「げんき農場」を訪れる機会がありました。

皆さんが耕した畑に足を踏み入れながら、激烈な噴火と避難生活、その後のげんき農場開設等を住民の皆さんと過ごしてきたのだなどの思いが湧き起こりました。同時に、雑草もなく、すみずみまで丁寧に作付けられた畑を拝見し、95名の皆さんの底力に驚嘆いたしました。そしてこのパワーは、将来の島の復興に寄与するとの確信を持ちました。

さて、今回の噴火では、多量の火山灰が広範に降り積もりましたが、この灰には、炭素と、窒素とリン酸が不足しているとのこと。川のない三宅島が鳥たちの楽園となったのも、島の土壌に不足した成分を鳥たちによってコツコツと運びあげる作業があったからでしょう。

やがて、本格帰島を迎える日、鳥たちが何百年も長期間かけて行ってきた作業を、人の英知と技術力により短期間で行わなくてはなりません。それも、最後は人力がものをいいます。雑木や排水不良土を除去し、優良な堆肥をすきこみながら緑土を回復していく作業は、まさに「げんき農場」開墾の過程そのものとなることでしょう。

その日が来るまで、皆さんとともに耕しましょう。畑を、そしてお互いの心を。



- 里芋を支える山岸前所長 -

昨年(2001年)10月3日に行なった里芋の試し堀りの様子。

場員の声

「まかめ種は生えぬ」



田中 ミトエ (町田市在住:坪田)

今年5月下旬に日帰り帰島した折、冷蔵庫の中に「平成11年産」とのメモの入ったササゲ豆の種を見付け持ち出しました。発芽するか不安でしたがこちらのベランダで植えたところ、2日後に全ての種から芽が出てくれました。この黒いササゲは東京の種屋にはなく、島独特の赤飯用として欠かせない、私にはとても思い入れの強いものです。

その後、自宅での管理は無理と判断し、げんき農場で話をしたところ、快く受け入れてもらえることが出来ました。すぐに農場の一角に、持ち込んだ苗が植えられました。程なくして、川口クリーニング屋さんの種も仲間入りしました。川口さんの種

類は、私のよりサヤも長く立派な実を付けていました。

今は収穫も終わり、沢山の豆を前にして喜びをかみしめています。一粒でも多くみんなで分け合い、そして願いがかなうなら、げんき農場でなく島の畑に植えることが私を支える小さな夢です。



「桑の大樹と帰島の日迄」



菊池 忠男 (八王子市別所在住:坪田)

八王子は明治32年、東京から鉄道が敷かれ、織物の町として栄え今日に至っています。駅前には桑並木もあり、織物の町としての名残を伝えています。

三宅島げんき農場で働く人にとって、八王子は第二の故郷のようなものです。げんき農場には一本の大樹があります。この大樹に私たちは朝から帰るまで、お世話になっています。特に夏は日陰を作り、私たちの話をじっと聞いています。5月には沢山の実を付けました。鳥も訪ねてきます。

この桑の大樹は八王子の丘に根を降ろし、明治から平成へと続く百年余りの世の変貌を見て来たことでしょう。私はこの大樹に「ありがとう」の言葉を送りたいと思っています。帰島の日まで。

「お世話になりました」

げんき農場の開設当初から、沖山典久、宮原守一考と共にげんき農場の送迎バスの運転を担当してきました。この度、送迎バスの運行が民間へ委託されることになり、げんき農場から離れることになりました。

げんき農場への経路は、八王子市街の交通の激しい幹線道路は勿論のこと、伊ヶ谷の都道ほどの狭い道もあり、なにより事故の無いように気を使いました。約1年半の間、大きなトラブルが無く運行でき、なによりホッとしています。また、朝夕、島弁が飛び交う賑やかなバスを運転することは楽しい経験でした。

三宅村役場の運転手はげんき農場を離れますが、今後は一時帰島などでお世話させていただきます。皆さん、お元気で頑張ってください。



渡辺 浩 (三宅村企業課職員)

高齢者に関する知識 (高齢者ための知識シリーズ⑧)

高齢期になると加齢に伴い身体機能が低下するため、さまざまな病気にかかりやすくなります。しかし、すべての高齢者が日常生活に支障が出る程、健康を損ねているわけではありません。国民生活基礎調査によれば、「自分の健康について「よい」「まあよい」「ふつう」と答えた人は、65～74歳の男性で78.4%、女性では75.2%でした。

しかしながら高齢者の約70%の人が医療機関に通院しています。そこで、今回は薬について書いてみます。

- 1 この薬の名前は?
- 2 何に効くの?
- 3 服用する時に注意することはないか?
- 4 副作用はないか?
- 5 他の薬との飲み合わせはないか?

★薬を受け取る時に確認して「はつ」——大切なのはこの質問

☆薬を水なしで飲んでもいいですか?

必ずコップ半分から一杯の水かぬるま湯で服用してください。水なしで飲むと、のどや食道にひっかかって、その部分が潰瘍をおこすことがあります。

☆糖尿病の治療で薬を飲んでいますが、どんなことに注意したらよいでしょうか?

糖尿病薬を服用している人は低血糖症(空腹感・脱力感・発汗・動悸・めまい・手足の震え)に注意してください。食事を抜いたり、食事の時間が遅れたりしない事が大切です。また薬を飲む時間や量をきちんと守りましょう。他の病気で別の医師にかかる時や、薬局で風邪薬や痛み止めの薬を購入するときも、必ず糖尿病薬を飲んでることを告げてください。

☆高血圧症で薬を飲んでいますが、どんなことに注意したらよいでしょうか?

血圧を下げる降圧剤には、主に血管拡張剤や降圧利尿剤が組み合わされて使われます。降圧利尿剤は尿量が増えますから、就寝直前の服用は避けたほうがよいです。降圧剤は、高血圧の原因を治療するものではありません。自己判断で薬を減らしたり、治療をやめたりすることは大変危険です。医師に相談しましょう。

☆心臓病で薬を飲んでいますが、どんなことに注意したらよいでしょうか?

風邪薬などのなかには血管を収縮させたり、心拍数を増加させたりして心臓に影響を与える成分が含まれていることがあります。服用前に医師または薬剤師に相談し

★内科、整形外科、眼科で診療を受けてそれぞれ薬をもっている。一緒に服用してもよいですか?

ましよう。

複数の診療科から薬がでている場合、注意しなければならぬことは薬の重複です。痛み止め、炎症止めや抗生物質などが重複することが予想されます。全く同じ薬ではなくても同じような効果の薬が処方されている場合があります。薬が重複した場合効き目が増強したり、副作用が起こりやすくなったりします。複数の診療科にかかるときは、他の診療科で薬をもらっていることを、それぞれの医師にその都度知らせることが必要です。このことは薬局で購入した一般用の薬を服用している場合も同じです。

*飲み忘れて余った薬、古くなった薬は捨ててしましましょう。誤って飲んで事故につながる危険もあります。

保健所だよ!り

東京都島しょ保健所三宅出張所 〒163-8001 新宿区西新宿2-8-1 TEL.03 (5320) 4557 都庁第1本庁舎41F FAX.03 (5388) 1600

晴れた日は、



アウトドアクッキングを!!

パパ: 明日は天気良きそうだから、河原でバーベキューでもしようか。

ゆう君: やったー!

ママ: それじゃあ、今晚のうちに料理の下ごしらえをしておかなければならないわね。

ゆう君: 早くもお手伝いするよ。

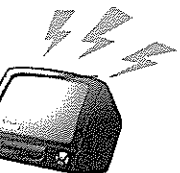
パパ: よーし、みんな準備よし。

ママ: 野菜の下ごしらえが終わったわ。すぐに冷蔵庫で冷やしておきましよう。

ゆう君: 野菜だけ。

ママ: えーっと、冷蔵庫にお肉とエビがあるわ。これを使いましょう。

パパ: テーブルの上に置いておけば、自然に解凍するんじゃないかな。



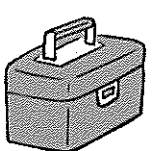
ママ: だめよ。電子レンジの、解凍モード、を使えばいいのよ。

ママ: エビや貝などは表面が凸凹しているため、バイ菌が潜んでいる可能性があります。表面を水道水でよく洗ってから下処理をしましょう。

パパ: クーラーボックスは、押入れの中だったね。

ママ: たいへん、保冷材が足りないわ。

パパ: 保冷材の代わりにペットボトルに水道水を入れて冷凍しておこう。ゆう君、たのんだよ。

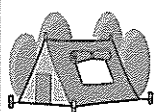


ゆう君: オッカー!

パパ: 他に、忘れていたものはないかな?

ゆう君: てるてる坊主を作らなきゃ!

料理の熱源に炭や薪などを使用した際には、火加減が難しい場合があります。中心部まで十分に火を通して、生焼けにならないようにしましょう。



平成16年 秋号 No.267

登録(14)1号



1 食事はバランスが大切

一日3食主食・主菜・副菜を揃えて食へましょう。

見直そう食生活!



都民の栄養状況(平成13年)を見てみると、ご飯などの主食のとり方は減少傾向。逆に肉・魚などの主菜はとりすぎの傾向。カルシウムと、野菜のとりかたは不足ぎみ! また、脂質や食塩は取りすぎ! さて皆さんのとりかたは?

1900kcalの場合の望ましい主食・主菜・副菜の1日の構成(例)			
主食はしっかり!			
主食(主に炭水化物がとれる) ご飯・パン・麺類・いも類など	食パン6枚切2枚	ご飯約440g	
肉・魚類は適量に			
主菜(主にタンパク質がとれる) 魚・卵・大豆製品など	豆腐100g	あじ中1尾	赤身の肉120g
			卵1コ
野菜は毎食、たっぷり!			
副菜(主にビタミン、ミネラル、食物繊維がとれる) 野菜・海藻・きのこ類など			1日350g以上

2 カルシウムの取り方は?

成人の所要量は性、年齢等により異なりますが、一日600〜700mgです。

☆カルシウムの多い食品

- 牛乳・乳製品・豆腐・大豆製品
- 小魚・貝類・緑黄色野菜など

カルシウム600mgとれる組合せ例

- 小松菜ひたし一皿(70g)
- 木綿豆腐半丁・しらす干10g
- 牛乳200g・こま大さじ1杯

☆成人一日のとり方の目安

- 緑黄色野菜 120g以上
- 豆・豆製品 100g
- 牛乳・乳製品 130g以上

いろいろなものからとろう!

3 塩分の使い方を減らそう!

成人の目標は10g未満です。



みそ汁1杯の塩分約1.5〜2g
しょうゆ小さじ1杯は1g
たくあん2切は1g

一食あたり3g程度が目安。

こんな工夫で減塩を!

- ◎汁物は具たくさんにして汁を少なめに、
- ◎麺類は汁を残す
- ◎漬物や練製品、佃煮は控えめに



かけそば
スープ半分で塩分2/3に
(塩分5g) ⇨ (塩分3.3g)

いかがでしたか?

食事に関する相談は、お近くの保健所や区市町村の栄養士まで、また、御蔵島の方は八丈島にある保健所の栄養士(電話04996-2-1291)をご利用下さい。

気をつけて安心! インフルエンザ

その1 ただの風邪と思わず、気をつけましょう。

インフルエンザは、
高熱(39℃以上)
突然はじまる悪寒
頭痛
吐き気
関節などからだの痛み
だるさ
など、かかってしまうと大変です。



特に高齢の方、子供、持病のある方は注意しましょう。

その2 インフルエンザにかりにくい生活を!

- ☆睡眠を十分に取ります。
- ☆野菜・魚・肉・海藻・牛乳などバランスよく使った食事をしましょう。
- ☆外から帰ったら、



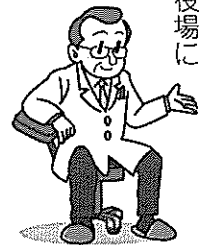
手洗い、うがいをしましょう。
☆お茶などのお茶を濁しましょう。

その3 かかったら早めにお医者さんへ!

いつものカゼと違うな...と思ったり、上に書いたようなインフルエンザの症状があったらすぐに受診しましょう。

その4 予防接種の相談を!

高齢の方、心臓・呼吸器の病気や、糖尿病など持病のある方は特にかかりつけの医師などに予防接種について相談をしましょう。インフルエンザのピークは1月〜2月です。秋のうちに早めの相談を! 65歳以上の方は予防接種の料金助成について村役場にお問い合わせをして下さい。



保健所はどのような仕事をしているの?



生活環境係は、獣医師、食品衛生監視員及び環境衛生監視員で構成されています。一見、なじみのない係かもしれませんが、意外と身近なところで皆さんの生活に関わっています。街の中ほとんどのお店、たとえば、食品を扱う商店や食堂、床屋・美容室、クリーニング店、旅館・民宿、公衆浴場、プールなどの営業許可に関することや施設の衛生状況の監視・指導、衛生検査などを行っています。

その他、人と動物が共に生活するためのイヌやネコの飼育方法やしつけ方、人畜共通感染症(人と動物の間で、相互に感染する病気)などに関する相談や質問、食へ物に関する苦情や相談、

TEL: 03-5320-4558

島しょ保健所三宅出張所生活環境係まで

皆さんが生活している環境の中で、日ごろから疑問に思っていることがありましたら、最寄りの保健所またはお気軽に島しょ保健所三宅出張所の生活衛生係までご相談下さい。

第5回三宅島島民ふれあい集会

日時：2002年11月4日(月・振替休日)午前10時30分～午後3時30分

会場：港区立芝浦小学校・芝浦幼稚園

秋の一日、三宅島のみんなに会いに来ませんか？ お誘いあわせの上、ぜひ、お出かけください。



ステージイベント

10:30～11:40

- ◆ 三宅島神着木遣太鼓・三宅島伊ヶ谷獅子舞
- ◆ 三宅島災害・東京ボランティア支援センターからの応援メッセージ
- ◆ 東京都・三宅村からのメッセージ

体育館プログラム

12:30～15:30

- ◆ 島民合唱団「アカコッコ」
- ◆ 「東京都からのご報告」
- ◆ 「三宅村からのご報告」
- ◆ 「三宅島島民対話の時間」



校庭および校舎内各コーナー

- ◆ 屋台：くさや(島民有志&ボランティア有志)・おしるこ(三宅島会)・つみれ汁(八潮三宅会)・おいしいもの(東京都司厨士協会)
 - ◆ みんなで遊ぼう保育園(三宅村保育園)・手づくりおもちゃで遊ぼう(三宅村立小学校) ◆ 休憩室：三宅島社協 ◆ 島民作品展
 - ◆ 法律相談コーナー(三宅島サポート法律家グループ)
 - ◆ 年金相談(三宅村村民課) ◆ 警察相談(警視庁三宅島警察署)
 - ◆ 支援団体テント：指圧(日本赤十字東京都支部)・三宅島火山灰利用技術の展示(都立産業技術研究所)・さをり織り体験
 - ◆ ふれあいテント(東京都生協連)
- ほか盛りだくさん

